

八戸工業高等専門学校		開講年度	令和04年度 (2022年度)		授業科目	国語 I B(0201)	
科目基礎情報							
科目番号	1Z02			科目区分	一般 / 必修		
授業形態	講義			単位の種別と単位数	学修単位A: 1		
開設学科	産業システム工学科環境都市・建築デザインコース			対象学年	1		
開設期	冬学期(4th-Q)			週時間数	4th-Q:2		
教科書/教材	①『古典を読んでみましょう』（ちくま新書）②『日本古典読本』（筑摩書房）③『新精選古典B漢文編』（明治書院）④『新訂 図説国語 五訂版』（京都書房）⑤『常用漢字の標準演習 改訂版』（東京書籍）⑥『現代の国語』（東京書籍）⑦『改訂版 ほんものの力がつく 現代語練習帳 こののは』（いいずな書店）						
担当教員	齋 麻子						
到達目標							
日本古典文学について、古文の基礎知識と文学史的背景をふまえた作品鑑賞を自主的にできる。漢文の初歩的な読解ができる。現代文の理解ができる。漢字テスト等を通して、語彙力を高める。言葉の大切さを理解する。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
古文の基礎知識と文学史的背景	日本古典文学について、古文の基礎知識と文学史的背景をふまえた作品鑑賞を自主的にできる。		日本古典文学について、古文の基礎知識と文学史的背景をふまえた作品鑑賞をできる。		日本古典文学について、古文の基礎知識と文学史的背景をふまえた作品鑑賞をできない。		
漢文の読解	漢文の読解ができる。		漢文の初歩的な読解ができる。		漢文の初歩的な読解ができない。		
現代文の理解	現代文の理解が主体的にできる。		現代文の理解ができる。		現代文の理解ができない。		
語彙力の向上	自ら主体的に語彙力を高めることができる。		語彙力を高めることができる。		語彙力を高めることができない。		
言葉の大切さの理解	言葉の大切さを主体的に理解できる。		言葉の大切さを理解できる。		言葉の大切さを理解できない。		
学科の到達目標項目との関係							
ディプロマポリシー DP1 ◎ ディプロマポリシー DP6 ○							
教育方法等							
概要	【開講学期】冬学期週2時間 基礎的な教養が得られるような代表的な作品を日本文学のさまざまなジャンルから選び、自国の言葉や文化を学習する。また、漢文に関する基礎的な知識と理解を身につける。併せて現代文の読解力を養う。						
授業の進め方・方法	教科書を中心に古典文学作品を鑑賞する。古文の読解を行い、歴史的背景を押さえ、作品理解を深める。漢文の文章について、読み方や解釈のしかたを習得する。併せて現代文の読解を行う。						
注意点	定期的に漢字テストを行う。宿題課題等の提出物は確実に提出すること。教科書・副教材の他に古語辞典と漢和辞典（電子辞書可）を持参すること。配布プリント（学習シート等）は紛失しないように国語専用のファイルを準備すること。						
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
後期	4thQ	9週	ガイダンス・自学自習について		提示された課題を理解できる。		
		10週	古典・テーマを見つける/古典文学を読む		古典文学の世界観を理解できる。		
		11週	古典文学を読む/漢字テスト		古典文学の世界観を理解できる。 語彙力を向上できる。		
		12週	古典文学を読む/漢字テスト		古典文学作品を理解できる。 語彙力を向上できる。		
		13週	漢文を読む		漢文の世界観を理解できる。		
		14週	漢文を読む/漢字テスト		漢文の世界観を理解できる。 語彙力を向上できる。		
		15週	漢文を読む		漢文の世界観を理解できる。		
		16週	到達度試験（答案返却）		古文・漢文の知識を把握できる。 （古文・漢文の知識の把握を確認できる。）		
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標		到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	国語	国語	論理的な文章(論説や評論)の構成や展開を的確にとらえ、要約できる。		3	
				論理的な文章(論説や評論)に表された考えに対して、その論拠の妥当性の判断を踏まえて自分の意見を述べることができる。		3	
				文学的な文章(小説や随筆)に描かれた人物やものの見方を表現に即して読み取り、自分の意見を述べることができる。		3	
				常用漢字の音訓を正しく使える。主な常用漢字が書ける。		3	
				類義語・対義語を思考や表現に活用できる。		3	
				社会生活で使われている故事成語・慣用句の意味や内容を説明できる。		3	
				専門の分野に関する用語を思考や表現に活用できる。		3	
				実用的な文章(手紙・メール)を、相手や目的に応じた体裁や語句を用いて作成できる。		3	
				報告・論文の目的に応じて、印刷物、インターネットから適切な情報を収集できる。		3	

				収集した情報を分析し、目的に応じて整理できる。	3	
				報告・論文を、整理した情報を基にして、主張が効果的に伝わるように論理の構成や展開を工夫し、作成することができる。	3	
				作成した報告・論文の内容および自分の思いや考えを、的確に口頭発表することができる。	3	
				課題に応じ、根拠に基づいて議論できる。	3	
				相手の立場や考えを尊重しつつ、議論を通して集団としての思いや考えをまとめることができる。	3	
				新たな発想や他者の視点の理解に努め、自分の思いや考えを整理するための手法を実践できる。	3	
	工学基礎	グローバルゼーション・異文化多文化理解	グローバルゼーション・異文化多文化理解	それぞれの国の文化や歴史に敬意を払い、その違いを受け入れる寛容さが必要であることを認識している。	2	
				様々な国の生活習慣や宗教的信条、価値観などの基本的な事項について説明できる。	2	
				異文化の事象を自分たちの文化と関連付けて解釈できる。	2	
				それぞれの国や地域の経済的・社会的な発展に対して科学技術が果たすべき役割や技術者の責任ある行動について説明できる。	2	
分野横断的能力	汎用的技能	汎用的技能	汎用的技能	日本語と特定の外国語の文章を読み、その内容を把握できる。	2	
				他者とコミュニケーションをとるために日本語や特定の外国語で正しい文章を記述できる。	3	
				他者が話す日本語や特定の外国語の内容を把握できる。	3	
				日本語や特定の外国語で、会話の目標を理解して会話を成立させることができる。	3	
				円滑なコミュニケーションのために図表を用意できる。	3	
				円滑なコミュニケーションのための態度をとることができる(相づち、繰り返し、ボディランゲージなど)。	3	
				他者の意見を聞き合意形成することができる。	3	
				合意形成のために会話を成立させることができる。	3	
				グループワーク、ワークショップ等の特定の合意形成の方法を実践できる。	3	
				書籍、インターネット、アンケート等により必要な情報を適切に収集することができる。	1	
				収集した情報の取捨選択・整理・分類などにより、活用すべき情報を選択できる。	1	
				収集した情報源や引用元などの信頼性・正確性に配慮する必要があることを知っている。	2	
				情報発信にあたっては、発信する内容及びその影響範囲について自己責任が発生することを知っている。	2	
				情報発信にあたっては、個人情報および著作権への配慮が必要であることを知っている。	2	
				目的や対象者に応じて適切なツールや手法を用いて正しく情報発信(プレゼンテーション)できる。	2	
				あるべき姿と現状との差異(課題)を認識するための情報収集ができる	1	
				複数の情報を整理・構造化できる。	1	

評価割合							
	試験	漢字テスト	課題提出等	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	60	20	20	0	0	0	100
基礎的能力	60	20	20	0	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0